第６４回日本臨床細胞学会総会・春期大会の主宰を終えて

藤田医科大学
藤井多久磨

2023 年 6 月 9 日（金曜日）から 11 日（日曜日）まで、名古屋国際会議場において第 64 回日本臨床細胞学会総会・春期大会を主宰させていただきました。愛知県での開催は総会・春期大会としては 44 年ぶり、秋期大会からは直近では 7 年半ぶりの開催でした。本学術集会のテーマは「細胞でワクワクしよう―技術を極め、次世代に伝える―」とさせていただきました。おかげ様で現地開催と後日のオンデマンド配信は無事に終了しました。参加登録数は７６０９名で現地来場者数はおよそ３０００名、オンデマンド配信のログイン人数は６４０４名となりました。本学会プログラムの格子を立案してくださいましたプログラム委員長の愛知医科大学都築豊徳先生、コアプログラムおよびプログラム委員会の先生、愛知県および東海連合臨床細胞学会、検査士会および学生の皆様、名誉会長の小塚正雄先生、顧問の越川　卓先生　副会長をお引き受けくださいました、名古屋大学加留部健之輔先生、名古屋市立大学高橋　智先生、三重大学渡邊昌俊先生、そして藤田学園および慶應義塾大学関係者の皆様、各セッション座長の先生、学会理事、名誉会員の皆様そして学会本部事務局の皆様に厚くお礼申し上げます。今回のプログラムの特徴および学会開催にあたり力を入れた点について、下記に列挙させていただきました。

1.　オンデマンド配信

学会会場は講演として１１会場を使用し、オンデマンドは１０会場分を収録配信しました。さらに講義形式となる教育講演はオンデマンド配信のみとさせていただきました。結果として、教育講演は全部で２７コマとなり、過去最大規模となりました。

２.good question and comment(GQC)賞の設定

一般演題においては優秀演題賞を設定しました。また、ワークショップシンポジウム等ではフロアから良い質問やコメントをしていただいた人には GQC 賞を贈ることにしました。積極的かつ建設的良質な討議を推進したことで、各セッションにおける討議の質も高かったのではないかと自負しております。

３.機器展示室における工夫

企業の皆様からも多数のご支援を賜りました。今回は機器展示室におきまして、機器展示ツアーを企画しました。一人ではなかなか恥ずかしくて聞けないという人のため、また企業からは、企業の機器展示コーナーの代表の方がコンサイスにまとめてプレゼンをしていただくことで、双方ともにメリットがあるようにとの思いからです。機器展示においてはスタンプラリーも行い、参加者には機器展示にも積極的に足を運んでもらうような工夫をしまし

た。機器展示においては、参加者多数で企業が用意したパンフレット等が半日で配布が終わってしまったなど、企業の方から嬉しい悲鳴を聞くことになりました。

４.論文化

本学会では学会雑誌が発刊されていますが、近年投稿数も減少しており、その意義が問われています。そこで、本学会でご発表いただいた教育講演担当の先生から事前に許諾をいただき、発表の内容を論文投稿していただくようにしました。学会雑誌でも本学会の講演内容を振り返り勉強していただければと思います。

５.アトラクション

総懇親会はいつも総会終了後に行っていましたが、この総会終了がいつも遅い時間となっていますので、懇親会をおこなわないことにしました。参加者の皆様には総会終了後は名古屋の繁華街に繰り出して、名古屋飯をご堪能いただきました。なお外食を希望されない皆様には、お弁当を用意させていただきました。さて、総懇親会の代替えとして学会プログラムのど真ん中、tea time と称し落語をお楽しみいただくことにしました。林家菊丸さんは三重大学特任教授です。ご当地の芸能人ということで一席お願いすることにしました。落語は日本の文化です。おかげさまで満席となりました。

６.SNS

２０２３年２月より twitter アカウントを開設し、名古屋の観光案内やプログラムに関する情報を含めて情報発信を開始しました。この twitter を利用して名古屋の食べたいお菓子を投票で選んでもらい、上位にランクインされたお菓子を会場にて配布しました。２日間で４０００個を用意しましたが、あっという間になくなりました。

７．そのほか

託児所は現地に設けず、使用した分だけ払い戻しをするという制度にしました。このほうが経費かからず、利用者・主宰者双方にとってもメリットがありました。教育講演オンデマンド配信についてはオンデマンド視聴をしていただいた参加者に別途クイズにお答えいただけた参加者（先着順の制限あり）に参加賞を配布しました。オンデマンド視聴の促進に貢献したと思います。ポスターや現地会場におきまして、紫陽花の花を飾りました。紫陽花は本来我が国固有の花でありヨーロッパで改良され日本に戻ってきたと言われています。紫陽花は小さな可愛い花があつまって大きな花のように見せています。我々一人一人は小さくても皆で力を合わせて頑張ろうというシンボルとして使わせていただきました。花言葉は「和気あいあい」「家族」です。紫陽花の開花時期が今年は気温が高く、学会開催時期とぴったり重なったのにはびっくりしました。学会の前には日本各地で震度４の地震、そして集中豪雨と不安な要素がたくさんありましたが、学会開催期間は天変地異もなく安堵しまし

た。

以上、学会の総括とさせていただきます。久しぶりの in-person の学会、現地への来場者の人数が読みきれず、接遇等至らぬところ多々あったかと思います。この 3 年半におよぶコロナ禍に免じ、何卒ご容赦のほどよろしくお願い申し上げます。最後に学会事務局長で頑張っていただいた、藤田医科大学産婦人科学教室野村宏行先生そして、株式会社リンケージの羽根様、井山様、藤井様には学会運営におきまして大変お世話になりました。ここに改めてお礼申し上げます。